

# 大阪湾の再生 ～大阪湾再生行動計画の推進～



京阪神圏における「水のネットワーク」の中心である大阪湾において、失われた良好な自然環境の再生・創造のための各種施策を、地域と連携しながら積極的に進め、「海の再生」を図る。

## 行動計画策定の背景

都市再生本部が都市再生プロジェクト(第三次決定、平成13年12月)に「海の再生」を位置付け

・都市環境インフラを構成する重要な要素として、水質汚濁が慢性化している大都市圏の「海」の再生を図る

大阪湾再生を目指し、「大阪湾再生推進会議」を設置(平成15年7月28日)

・国の関係機関及び関西圏の2府4県3政令市等で構成

大阪湾再生のための行動計画(「大阪湾再生行動計画」)を策定(平成16年3月26日)

## 大阪湾の水環境の現状

社会経済活動の発展に伴う浅海域や自然海岸の大幅な減少

・市民が海とふれ合うことのできる親水空間、生物多様性の確保に重要な干潟や藻場を喪失

集水域に大きな人口・産業集積を有する閉鎖性海域

・陸域からの窒素・リンの流入等による富栄養化の進行、赤潮の発生など内部生産による湾奥部の水質汚濁の慢性化

・夏季に大規模な貧酸素水塊の発生、水産生物などの生物生息への影響



赤潮の発生状況



浮遊ゴミの漂着状況

## 一目標一

森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにわ)の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する。

### 大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標

計画期間：平成16年度から10年間

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO : 5mg/L以上(当面は3mg/L以上)
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟、藻場、浅場等の面積 砂浜、磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD : 散策、展望 : 5mg/L以下 ・潮干狩り : 3mg/L以下 ・海水浴 : 2mg/L以下 ・ダイビング : 1mg/L以下
人々が快適に海にふれ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ



※必要に応じて、大阪湾全体に共通した具体的な目標や指標とは別に、個々のエリアの特性に応じた具体的な目標及び指標を設定しています。

# 大阪湾再生に向けた取り組み事例

大阪湾の再生の進め方は、市民・住民・NPO・学識経験者・企業など、多様な主体との連携と協働をキーワードとして、以下の通り様々な取り組みを行っています。



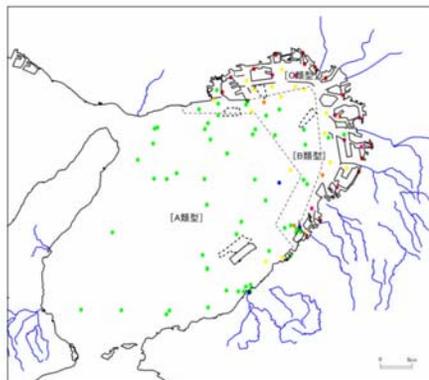
大阪湾ダイビングスポット創造プロジェクト



ミニ人工干潟実証実験



海藻を利用した環境改善実験



凡例	凡例
● 27.5mg/L	環境基準 (A型型)
● 25 mg/L	行動計画の目標 (B型型)
● 24 mg/L	行動計画の目標 (B型型)
● 23 mg/L	行動計画の目標 (B型型)
● 22 mg/L	環境基準 (C型型)
● <2 mg/L	環境基準 (C型型)

図 4-5 海域における水質の水平分布 (底層: D0)

大阪湾水質一斉調査



環境データベース



大阪湾フォーラム